（第２号様式）

令和５年３月 23 日

神奈川県教育委員会教育長　殿

県立上鶴間高等学校長

令和４年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標（令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価（３月 13 日実施）	総合評価（３月 23 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	基礎学力の充実に向けたバランスのとれた教育課程を編成するとともに多様な生徒の進路希望に対応する質の高い学習指導に取り組み、生徒一人ひとりの学習機会の拡大を促進する。	新学習指導要領の実施を受け、学力の３要素を踏まえた教育課程の充実を図り、「主体的・対話的で深い学び」を実現するため、ＩＣＴを活用した指導方法の工夫・改善を図る。	①生徒が身に付ける学力の３要素及び身に付けるための具体的な方策を、全教員・生徒で確認・共有する。 ②ＩＣＴを利活用し、主体的・対話的で深い学びを実現する指導方法を研究する。 ③特別募集生徒を含めてすべての生徒に対してわかりやすい授業を目指し、授業改善に努める。	①生徒と共に学力の３要素を確認し、身に付けるための方策を共有できたか。 ②ＩＣＴを利活用し、主体的・対話的で深い学びに重点を置いた授業の指導方法の研究を進めることができたか。 ③特別募集生徒を含め、すべての生徒に対し、わかりやすく充実した授業の研究を行ったか。	①年度当初に学力の３要素を踏まえた指導と評価についての研修会を行い、方策を共有した。全生徒が共有するには至っていない。 ②１人１台端末の導入により、素早く情報を検索し、まとめ、発表する主体的な学びを行うことができた。 ③職員ミニ研修や ICT 研修を通して、特別募集生徒を含めたすべての生徒に対してわかりやすい教材、授業作りに努めた。	①年度初めの授業で、３要素を踏まえた授業計画と評価方法を生徒に説明し確認する必要がある。また、教科で具体的な指導方法や評価の方法を更に研究する必要がある。 ②１人１台端末を利活用した効果的な授業を更に研究していく必要がある。 ③特別募集生徒の多様性に対して、個々の指導方法や支援体制を更に考え構築していく必要がある。	①総合的な探究の時間は、評価の在り方が今後の大学入試の総合型選抜に取り入れられる動きがあり、グループ学習や発表に力を入れている点は、良い指導と言える。 生徒の主体的学びが身についているか、エビデンスが見えるように説明すると良い。 ②１人１台端末は価格の上昇もあり、家庭の負担も大きいことからも、有効活用が求められる。 自己情報の管理も教育の一環である。	①学力の３要素を踏まえた単元の指導と評価の計画を立てる準備を進めることができた。 思考力、判断力、表現力の観点を高める授業計画を各科目で更に考えていく必要がある。 ②１人１台端末の導入により、素早く情報を収集し、まとめ、発表する主体的な学びの授業ができるようになった。 また、教員同士の授業見学を行い、端末活用方法を共有し、授業改善につなげた。 ③職員ミニ研修や ICT 研修を通して、特別募集生徒を含めたすべての生徒に対してわかりやすい授業を目指した指導方法の研究を進めることができた。	①年度初めに各教科で綿密な指導計画、評価方法を研究する。 ②１人１台端末を利活用した、主体的な学習活動の指導方法について研究を進める。 ③特別募集の生徒が抱えている課題は様々であり、個々に対応した指導や支援方法を考えて行く。
2	（幼児・児童・） 生徒指導・支援	①自転車乗車マナーの向上を積極的に進め、交通安全に対する取組を組織的に推進する。 ②生徒の自主的・主体的な活動を支援し、豊かな人間性や社会性を培う活動内容の充実を図る。	①登下校における自転車事故防止と運転マナーの向上のための指導を行う。 ②生徒会活動を支援し、生徒が自主的・意欲的に諸活動に参加できるように取り組む。	①年間を通じて交通安全指導を実施し、地域や外部機関と連携を図り交通安全に対する意識を向上させる。 ②ＩＣＴを活用し、生徒会、委員会及びボランティア活動を活性化するとともに、部活動安全対策支援事業を活用し、部活動の充実を図る。	①交通安全に対する意識が向上し、交通事故件数を減らすことができたか。 ②ＩＣＴを活用し生徒会、委員会、ボランティア活動へ生徒の自主的・意欲的な参加を促すことができたか。また、部活動安全対策支援事業を実施し、部活動の加入率が向上したか。	①全体的には交通安全の意識は向上しているが、校外の方を巻き込む事故が１件発生した。また、自転車マナーに対する苦情も例年と同程度ある。 ②こども食堂などのボランティア活動やウクライナ支援募金の活動を行った。また、体育祭・文化祭の開会式・閉会式で生徒会の役員生徒が司会を行うなど自主的・意欲的な参加を促した。部活動加入率は前年度と同程度であった。	①行事やＨＲでの指導など、交通安全に対する意識向上を根気強く継続する必要がある。 ②ボランティア活動の参加数を増やす取組が必要である。また、部活動加入率を上昇させるために、１年生の加入率を高くすることが課題である。部活動オリエンテーションを改善する。	①交通事故数は減っている。 ②豊かな人間性や社会性を培うことは大切である。ボランティア活動や募金活動を行うことは素晴らしいが、事後に生徒が発表する機会をつくり、関係者に講評をもらうなどして、振り返る機会をつくると、生徒の深い学びにつながる。 部活動に入ったという思い出は大切。部活動オリエンテーションは対面でぜひ復活して欲しい。	①自転車乗車時のルール・マナーの向上は一定程度図られており、事故件数も減少傾向にある。しかし、近隣住民からの苦情は相変わらずいただいているのが現状である。 ②生徒会、委員会、ボランティア活動へ、生徒の自主的・意欲的な参加を促すことは概ねできた。 部活動加入率の向上が課題である。	①登校時の自転車乗車マナーの向上などに関する啓発を根気強く継続するとともに、危険なポイントに教職員等が立ち、指導することを継続する。また、地域や外部機関との連携を更に深め実践して行く。 ②生徒会、委員会、ボランティア活動に関しては継続してＩＣＴの活用による生徒の自主的・意欲的な参加を促して行く。 部活動加入率が上げるため、部活動オリエンテーションを実施するとともに、ＨＰや動画等を活用し、広く活動を周知する。

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価（３月 23 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	（３月 13 日実施）	成果と課題	改善方策等
３	進路指導・支援	社会的・職業的に自立できる力の醸成を図り、生徒一人ひとりが主体的に進路を考える姿勢を育むキャリア教育の充実を推進する。	生徒一人一人が自身のキャリアを見通した進路決定ができるよう支援する。	①成年年齢 18 歳を受け、自立に向けシチズンシップ教育を推進するとともに、インターンシップやコンソーシアムを活用し外部機関との連携を図る。 ②特別募集生徒への夏季キャリア、インターンシップを実施し、「職業と生活」と連携し特別募集生徒の進路意識を高める。	①生徒一人ひとりが意識を持って、社会的自立に向けた活動をするための支援ができたか。 ②夏季キャリア、インターンシップ、「職業と生活」を通して、特別募集生徒の進路意識を高め、社会の中で生活する力を身に付けさせることができたか。	①インターンシップは早期の呼びかけで参加者数が前年度より増加した。また、各学年でシチズンシップ教育を行い、一定の成果が見られた。 ②特別募集生徒の保護者対象進路説明会を実施した。また、夏季キャリア・インターンシップの結果をもとに面談を行い、進路に向けての意識を高めることができた。	①年間の指導予定項目が多く、外部機関との連携が十分に取れていない。多様化する時代を踏まえ、３年間を見通した指導の在り方を再構築する必要がある。 ②今後も夏季キャリア・インターンシップの受け入れ先の開拓や進路説明会の内容の改善を図る。	①インターンシップに参加し、生徒にどんな変容があったか、受け入れ先の評価はどうであったかが大切である。 キャリア教育を改善中ということであるが、目標や計画を整理し、見える化した方が良い。 オープンキャンパス等に積極的に参加し、自分の目で見る計画を立てると良い。 ②特別募集生徒がインターンシップに参加して挨拶の大切さを実感できたことは、生徒の将来にとって大きいことである。	①保育や看護が中心となったインターンシップでは、仕事に対する意識が向上し、その後の進路先決定に活かすことができた。 「総合的な探究の時間」での取組を利用した入学選抜を見据え、キャリア教育の再構築が今後の課題である。 ②夏季キャリアやインターンシップの実施によって、進路や将来の職業への意識を高めることができた。特にインターンシップについては、今後も生徒の希望や特性を考慮して実施先の選定を行うことが必要である。	①キャリア教育に関する取組を精査する。また、外部機関との連携等を踏まえた計画を立て、それを可視化する。 ②面談等で生徒からの希望の聞き取りや生徒の特性を把握することに合わせ、インターンシップの受け入れ先を引き続き開拓する。
４	地域等との協働	ＰＴＡとの連携、地域、企業の教育力の活用などにより学校理解の促進を図るとともに、地域に開かれた地域とともにある安全・安心な学校づくりを進める。	積極的に地域の人材を活用し、教育活動の充実を図り、地域に本校の教育活動を理解してもらう。	①生徒会、ＰＴＡ、自治会等が連携し地域の夏祭りに協力するとともに、地域の要望を踏まえた地域貢献デーを実施する。 ②ＨＰを適切に更新し、積極的に情報を発信し、本校についての理解を図る。	①地域の力を活用し、連携事業を実施できたか。また、地域のニーズを踏まえた地域貢献デーを実施できたか。 ②校内の各グループ等のＨＰ担当を中心に本校の情報発信を積極的にできたか。	①１年生とＰＴＡ中心に地域貢献デー（学校周辺の清掃活動）を実施した。 ②定期的なＨＰの更新で、積極的に本校の情報を発信した。	①学校運営協議会において、地域貢献デーによる清掃場所の要望が出た。今後、部活動も含め実施できるように調整する。 ②各学期、行事、部活動の大会等、引き続き校内の各グループ等にＨＰの更新を依頼し、本校の情報発信を行う。	①以前に参加してもらっていた地域のお祭で、ダンス部等の発表を行ってほしい。 以前に行っていた小学校でのボランティアに来てほしい。是非連携したい。 ②コロナ禍において、オンラインの役割は大きい。ＨＰは学校の顔であり、「見てもらえるＨＰの更新」は素晴らしい。今後も意識的に更新してほしい。	①地域のお祭でのボランティアや小学校との交流は、コロナ禍以前はＰＴＡ地域交流委員会や生徒会を中心に行なっていたが、ここ３年間は取り組むことが出来ていなかった。 ②学校説明会や個別相談会などＨＰが活用されていることに手ごたえを得ている。来年度も行事や部活動など、更新をこまめにできるよう働きかけを行うことが必要である。	①生徒の地域行事等への参加を積極的に促す。（視点２） また、ＰＴＡ役員は以前までの事を知っている方はいないので、新たな形での取組を模索する。 ②年度当初にＨＰ担当者への説明会を行っており、継続する。この他にも行事や部活動の大会等の機会をみて更新を働きかける。
５	学校管理 学校運営	①生徒の防災意識を高め、安全対策を一層強化するとともに、地域と連携した災害時の体制整備を研究する。 ②教員のワークライフバランスを推進するために、教員の働き方改革を推進する。また教育環境の変化に迅速に対応し、前向きに課題に取り組む組織の育成を図る。	①大規模災害時における安全対策を強化し学校の役割について理解する。 ②持続可能な学校運営と教育の質を高めるために、教員のワーク・ライフ・バランスの実現を目指す。	①大規模災害を想定した帰宅経路や帰宅困難者の受け入れを想定した防災計画を作成する。 ②期間を区切り年次休暇の取得状況を確認し、職員に対して計画的な取得を促すとともに、教員の長時間勤務の改善に取り組む。	①帰宅班の作成引率教諭の割当てを行い、帰宅ルートを確認できたか。また、緊急時の学校の役割を防災計画に反映できたか。 ②年次休暇を 15 日以上取得できたか。また、１年あたりの時間外在校等時間を 360 時間以下にできたか。	①全生徒に DIG 研修を実施し、帰宅班及び帰宅ルートの確認を行った。また、緊急時の学校の役割を防災計画に反映した。 ②75%の職員が年次休暇 15 日以上（時間単位を含む）を取得、66%の職員が１年あたりの時間外在校等時間 360 時間以下。また、時間外在校等時間が月に 80 時間超の職員は０人であった。（3/20 現在）	①緊急時の学校の役割について、全職員への周知及び研修を実施する。 ②100％の達成はできていないが、ノー残業デーの設定や、定期的な年休取得の呼びかけで意識の醸成は図れており、引き続き取り組み、働き方改革を推進する。	①地域として、災害発生時には若い人の手を借りたい。生徒は何ができて、地域は何を望んでいるのか、地域との話し合いのきっかけを作ってほしい。 ②年次休暇の取得率向上を目指した取組や、時間外在校等時間が月に 80 時間超の職員は０人であることの取組は素晴らしい。	①緊急時・災害時における「避難」の計画・訓練は実施したが、「地域への貢献」という点については検討できていなかった。 ②教員の働き方改革に対する教職員の意識の醸成は図れたが、引き続きの取り組みで、年次休暇の取得日数の増加、時間外在校等時間の縮減を行う必要がある。	①「何ができるか」「何をすれば良いか」「何をしてはいけないか」等を先ずは検討する。 その上で、地域の方のご意見も伺いながら緊急時・災害時の準備を整える。 ②引き続き、教員へ「神奈川の教員の働き方改革に関する指針」を繰り返し周知すること等により、教員の働き方改革に対する意識改革を一層推進し、計画的な年次休暇の取得、時間外在校等時間の縮減に向けた取組を進める。